

# 房総 だより

(農)房総食料センター

千葉県山武郡横芝光町上原 368-1

<http://www.boso.or.jp/>

☆産地情報をお知らせします。

発行：2016年5月30日

## のら望話 昨今の稲作事情…ジャンボタニシ

近年農業における自然環境がかなり厳しくなってきた事は以前この欄でも何度か述べたことがある。一つは異常気象であり、もう一つが年々増え続ける細菌やウイルスによる新たな病気、更には鳥獣類の食害等。そんな中、米作りでも近年大変に厄介な問題に多くの農家が悩まされている。それが“スクミリンゴガイ”（通称ジャンボタニシ）である。



2~3m四方でこれ位の数はざら

昔から田んぼに生息し食用にもなる日本の固有種の4~5倍の大きさ。資料で見ると南米原産で1981年に食用として我が国にも持ち込まれ当時は日本各地に500ヶ所を超える養殖場があったとされている。然し販路が開けず養殖は数年で立ち消えたが繁殖力の強いこの貝は野生化し、あっという間に広がったと見られる。関東以西の県全てに生息している様で我千葉県内各所でも田植え後の稲の幼株の食害は年々拡大して来ている。その被害状況は温暖化とリンクして活動期が早まっていて田植えのやり直しを余儀なくされることさえも有る。



兎に角旺盛な食欲で放置すれば田から緑が消えて水面だけの部分ができる程である。対策には大変な手間と費用でありなんとも腹立たしい限り。

6月になるとショッキングピンクの気持ちの悪い卵の塊が田の中の稲の茎や周りの草等に産み付けられたものを沢山目にするようになる。

写真：稲の茎に産み付けた卵塊

乙女座のM